

# いわての学び希望基金

[活用状況のご報告]

あ  
り  
が  
と  
う  
。

# 新渡戸稲造の思いを胸に設立した基金は 皆様の温かい心によって子どもたちの支えに。

岩手の偉人の一人に「武士道」を著した新渡戸稲造がいます。

新渡戸稲造は、今から百年以上前、札幌農学校教授時代に、家庭の事情で学校に行けなかった子らを集めた無料の夜学校「遠友（えんゆう）夜学校」を設立しました。

その設立は、子どもたちに、「学ぶ楽しさを教え、将来、社会に役立つ人物になってほしい」との思いによるものと言われています。

「いわての学び希望基金」は、新渡戸稲造の精神を受け継ぎ、子どもたちが社会に出るまでに必要な「暮らし」と「学び」に役立てられ、皆様からのご支援が、子どもたちの希望と未来を創っています。

## 目次

子どもたちをめぐる復興の状況	3~4
座談会	5~8
感謝の気持ち	9~10
エール	11~12
「いわての学び希望基金」活用状況	13~14

表紙写真：大船渡市立赤崎中学校 全校生徒  
トビラ写真：岩手県立釜石商工高等学校 商工祭の様子

〈巻頭報告〉

## 地域の未来を支える仕事へ

大槌町立大槌学園  
事務主任  
阿部 貴大 さん



大槌町の4つの小学校と1つの中学校が統合し、平成28年4月に開校した町立大槌学園。震災からの復興のシンボルである学び舎には子どもたちの元気な声が響き、60人を超える教師が教育現場を支えている。阿部貴大さんは、この春大学を卒業し大槌学園の事務員として社会人のスタートを切ったところ。「最初の仕事は先生方の名前を覚えることでした」と笑いながら振り返る。

現在は出張行程の記録や旅費事務、各種手当の確認・認定など教師の活動を支援する業務を担当。それだけではなく「パソコンがネットに繋がらない」「コピー用紙がなくなった」等々、日々寄せられる要望や依頼にも速やかに対応しなくてはならない。

「業務を通して先生が活動しやすい環境を作ることで、間接的に子どもたちにも関わっていると思います。学校の主役は子どもたちと先生で、私は縁の下の力持ちになりたいです」。自らの役目をそう話す阿部さん、最近では仕事を任せられることも増えてきたという。

自然豊かな大槌町で生まれ育った阿部さん。中学3年の卒業式前日に東日本大震災に遭い、大槌高校へは仮設住宅から通学した。北海道の大学で学んだのち「故郷で教育に関わる仕事がしたい」と学校事務員を目指し、岩手県職員採用試験に応募して、配属された赴任地がまさかの大槌町だった。「いずれ帰って来ようとは思っていたけど、こんなにすぐに戻れるとは思ってなくて…」と驚きつつ、住みなれた町で家族と暮らせることを何より喜んでいる。

昨年完成した新居では、母に手料理を振る舞うことも。魚のさばき方は、魚料理が得意だった亡き父の手元を見て覚えた。休日には趣味の釣りやバイクでのツーリングを楽しみ、大槌学園の定期演奏会や町内のコンサートに参加するトロンボーン奏者の顔も持つ。充実した毎日は、支えてくれた多くの人のおかげと感謝の気持ちを忘れない。

「直接恩返しすることはできないけど、地域の子供たちや先生に仕事を通して返していきたい」。思いを胸に、故郷で暮らす阿部さんである。



〈取材時点：平成30年10月〉

# 子どもたちをめぐる 復興の状況

郷土を愛し、復興・発展を支える人材を育てています。



大槌学園新校舎外観

## ■大槌町立大槌学園新校舎での学び

大槌町立大槌学園は、東日本大震災津波により被災した町内の小学校4校と中学校1校が統合した小中一貫校として平成27年4月に開校し、翌28年4月に義務教育学校として認可されました。

児童生徒は、被災後、町内外の施設を間借りするなどして学び、平成23年9月からはプレハブの仮設校舎で学校生活を送っていましたが、平成28年9月に新校舎が完成し、町産木材を活用した木の温もりあふれる校舎で新たなスタートを切りました。

大槌学園では、特設の科目「ふるさと科」を設置するなど、従来の授業形態にとらわれない独自のカリキュラムを実施するほか、子どもたちと地域住民との交流スペースを設けるなど、地域参加型の豊かな体験の創出と学びの充実を図っています。



## ■公立学校施設の復旧状況(沿岸地区)

被災学校数 86校

[平成30年9月30日現在]

工事完了 85校 99% 整備中1校 1%

東日本大震災津波により、岩手県沿岸地域では、86校の学校で施設が被害を受け、そのうち85校が復旧しました。



高台に再建された大船渡市立赤崎中学校

## ■公立文化施設・体育施設の復旧状況

整備予定施設数 69施設

[平成30年9月30日現在]

整備中5施設 未着工3施設

工事完了 61施設 89% 7% 4%

岩手県沿岸地域では文化会館等の文化施設11施設及び体育館や野球場等の体育施設58施設が被害を受け、そのうち61施設(文化施設10、体育施設51)が復旧しました。

## ■被災者の住宅再建の状況(試算)

[平成30年9月30日現在]



※ 住宅の再建を開始した者に支給される被災者生活再建支援金(加算支援金)の申請13,841件に、災害公営住宅の完成戸数5,458戸を加えた数値を、住まいの再建が開始された数とみなすもの。

## ■いわての復興教育

### 震災の教訓から得た3つの教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】

岩手県では、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、県内全ての公立小・中学校及び県立高等学校・特別支援学校で、「いわての復興教育」プログラムに基づきながら、震災津波の教訓から得た3つの教育的価値を育てています。



復興教育の授業風景

### 震災の教訓から得た3つの教育的価値

- ◆【いきる】 震災津波の経験を踏まえた生命の大切さ・心のあり方・心身の健康
- ◆【かかわる】 震災津波の経験を踏まえた人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画
- ◆【そなえる】 震災津波の経験を踏まえた自然災害の理解・防災や安全



復興教育副読本(小学校低学年用)

## ■子どものこころのケアセンター設置

震災により大きなストレスを抱えながら生活する子どもたちの心のケアに対応するため、平成23年6月に「子どものこころのケアセンター」を宮古地区に開設、気仙地区・釜石地区にも同センターを順次開設し、子どもや家族、保育士や教員からの相談を受けてきました。

また、平成25年5月には、中長期的に継続した支援を行う拠点として、岩手医科大学(矢巾町)内に「いわてこどもケアセンター」を開設し、児童精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士など、多職種チームにより専門的なケアを行っています。



多職種によるこどもケアチーム



# 座談会

「いわての学び希望基金」の支援を受けて

## 「これまで」と「これから」、 支援に感謝—

東日本大震災津波から7年、復興が進む沿岸の町で生まれ育ち、自分の夢や希望を叶えるために頑張っている若者がいます。「いわての学び希望基金」が繋いだ、未来へと羽ばたく4人に震災からこれまでの体験や考え、今頑張っていること、そして将来の夢について語っていただきました。

※座談会は、平成29年8月に開催したものです。

出席者

- 佐々木 理紗子 さん(釜石市出身/保育教諭)
- 深尾 果南 さん(陸前高田市出身/岩手県立大学社会福祉学部4年生)
- 小林 龍一 さん(釜石市出身/釜石高校3年生)
- 千葉 宗幸 さん(大船渡市出身/大船渡高校1年生)
- 司会/釜石リージョナルコーディネーター  
二宮 雄岳 さん

※学校名・学年等は、平成29年9月現在のものです。

### それぞれの夢に向けて 頑張っていること

**二宮:**最初に、皆さんの「これまで」のことや、今、日々の暮らし、学校生活、職場の中で頑張っていることをお聞かせください。

**佐々木:**私は保育教諭をしており、去年は1歳児の担任でしたが、今年担当している4歳児はまた別の難しさがあります。試行錯誤を繰り返しながら仕事をしていますね。こども園なので働いているお母さんたちが多く、忙しいお母さんたちの代わりに一人ひとりの言葉やしぐさとか、色々な事に気を配るようにしています。

**二宮:**保育教諭になろうと決心したのはいつの時ですか？

**佐々木:**高校生の時ですね。身内に教育関係に携わっている人が多いので、自然に子どもと関わりたいなあという気持ちが生まれました。

**深尾:**私が今大学で頑張っているのは大きく分けて3つです。1つ目は、精神保健福祉士という資格取

得に向けた勉強の準備。2つ目は、卒業課題研究、卒論を書くことです。そして3つ目は、社会福祉士の資格も取るつもりなので、国家試験に向けた勉強です。

**二宮:**福祉の世界に進んでいきたいというきっかけを聞かせてください。

**深尾:**障がいのある方との関わりが小さい頃からあって、それがきっかけで障がい者の支援をやりたいと思いました。でも実際に教科書で学んでいる理論が、現場の実践では結びつかないこともあるなあとお実習で感じたりもして。

**佐々木:**私もそうです。子どもたち一人ひとりに合わせないといけない。

**小林:**自分は受験勉強ですね。今年の夏までは野球部で、普段は勉強時間があまり取れなかったし、引退するのもみんなより後だったんです。なにしろ練習して帰るとヘトヘトで、風呂に入って寝るっていう感じだったので。今はちゃんと切り替えて頑張っています。

**千葉:**自分は学校の行事にまだ慣れなくて、部活の大会と文化祭がかぶっているのが大変です。夏の大会で公欠していた時の範囲もテストに出るので、カバーしないといけないし、部活をやりながら勉強するのが大変ですが、最初の頃よりは色々出来るようになりました。

### 誰かがいるから 大変なことも頑張れる

**二宮:**お話を聞いていると、皆さん仕事や勉強などそれぞれに環境変化があったようですね。そういう中で頑張っていることの原動力って何ですか。

**千葉:**家族ですね。父が毎日朝



小林龍一さん  
釜石市出身。釜石高校野球部に所属し、引退した現在は教師を目指して受験勉強中。

食を作って自分が起きてくるのを待っててくれます。弁当も作ってくれますし。だから、自分のためだけではなく、恩返しするために勉強をしていると思っています。部活は仲間と一緒に野球をやるのが楽しいし、高校生の今しかそういうことは出来ないから、大事にしたいなって思います。

**小林:**自分は、同級生の存在です。野球と同じで勉強も仲間がいるから頑張れるって思います。

**深尾:**私は「自分がこうなりたい」という強い思いかな。何かあって「嫌だなあ」と思っても、自分で決めたから頑張るっていう。あとは何かあった時に相談出来る友人や家族がいることだと思います。

**佐々木:**私は受け持っているクラスの子どもの存在ですね。子どもたちの笑顔を見ると頑張ろうって思うし、力をもらってるって感じがします。

**二宮:**やっぱり自分一人じゃ頑張れないけど、誰かがいたら頑張れるっていうのがあるのかな。



## これからのこと、夢 地元だから出来ること

**二宮：**じゃあ次は、「これから」のことについて。自分の将来や、こんな風になっていたいというのがあったら是非聞かせてください。

**深尾：**将来的には地元に戻って働きたいというのが大学進学前からありました。さっきもお話しましたが障がい者支援がしたくて、相談支援員を目指しています。まずは実際に利用者さんやご家族と関わる経験を積んで、仕事に結びつけられたらいいなと思っています。

**千葉：**今までやってきて一番大きかったのはスポーツです。震災からの自分の支えになっているので、やっぱり将来はスポーツに関係した仕事に就きたいと思っています。野球は仲間とやることなので、自分一人だけじゃなくて周りがあるから出来ているっていうのを伝えたいですね。

**小林：**自分は教育学部に進学して、教師になりたいと思っています。中学の時には震災をきっかけに東京

から岩手に来ていた先生が自分たちのために尽くしてくれたし、高校の部活の顧問の先生も自分たちのために練習メニューを考えてくれました。それに憧れたのもあるし、あと震災の時も防災教育のおかげで避難した児童は全員無事だったんです。自分も教師になり、そういうことを教えていきたいと思っています。

**佐々木：**私も小学生、中学生の時は防災や津波の話を授業で学びましたね。たとえば地元のおじいちゃんとかおばあちゃんに「津波でんでんこ」のお話を聞きにいたり。そういう授業を小さい頃からやってきているので身に付いている部分はあると思います。

**二宮：**そんな佐々木さんは、「これから」についてどう考えていますか。

**佐々木：**子どもと関わる仕事に就くという夢は実現できたのですが、私の勤めているこども園の隣にも復興公営住宅や仮設住宅があって、被災地のコミュニティということを考えたとき、子どもたちを繋がりとして地域の人々が一緒に関わる場にこども園を活用出来たらいいなと考えています。

**二宮：**かまいしこども園のある地区では、子どもたちと公営住宅の住民の皆さんと一緒にラジオ体操をしていますね。本当にみんながすごくいい笑顔なんですよね。

## 震災から6年。私たちの考える地域貢献

**二宮：**今、佐々木さんから地域貢献についての話がありました。



千葉宗幸さん  
大船渡市出身。大船渡高校1年生で野球部に所属し、秋の大会に向けて練習に奮闘中。



深尾果南さん  
陸前高田市出身。岩手県立大学社会福祉学部4年生で福祉を学びボランティアも体験。

復興が進んでいく中で自分がどういう関わりを持っていけるんだろうかと、考えたりしますか。

**佐々木：**震災当時はやっぱり前のような町に住みたい、戻って欲しいという気持ちがすごく強かったのですが、徐々に街並みが変わってくるのを見ていて思うのは、今の子どもたちが成長して大人になったときに「釜石っていいところだな」、「釜石に戻って来たいな」と思ってくれるような、みんながしたいことの出来る環境を作っていけたらいいなと思います。

**深尾：**佐々木さんが話したように、私自身も元の街並みに戻るのが復興と思っていましたが、今は元の街並みよりも自分たちの力でもっと良くしていくことじゃないかなと思っています。そのためにも地元に戻って働きたいと思っています。

**小林：**そうですね。自分も町が今より活性化すると、住んでいる人たちの心の傷が無くなればと思います。教師になったら、そういうことも出来るのかなって。

**千葉：**今いる人たちってお年寄りが多いのかなって思うんですけど、挨拶とかコミュニケーションを大事

にしたいと思います。野球をしていると地元というだけで観戦に来てくれるし、頑張らなきゃと思います。

## 全国からの温かい支援に感謝のメッセージ

**二宮：**最後に「いわての学び希望基金」に温かいご支援をいただいている全国の皆さんに、メッセージをお願いします。

**佐々木：**社会人になって自分の夢も無事に叶えることが出来ました。ここまで来れたのもやっぱり支援してくださった皆さんがいてこそです。これからも仕事を一生懸命頑張っていて、子どもたちと一緒に被災地を盛り上げていけたらと思います。

**深尾：**この先、社会人になったら、復興へ携わりながら自分自身が誰かに夢や希望を与えられるような人になりたいと思っています。そういう姿を見せることで、間接的だけど支援に対して「ありがとう」って伝えられると思っています。

**小林：**震災で学校も野球道具も流された中で色々な支援がありました。避難所でも食糧をいただいたりして、お金以外にも皆さんの気持ちが伝わってきて嬉しかったし、感謝して

います。  
**千葉：**震災で町が流され、自分は母と祖母を亡くしました。すごいショックでしたが、色々な人に元気をもらいましたし、この基金があって進学が出来たので、感謝しています。

**二宮：**これからもきっと色々なことがあると思うんですけども、今まで大事に思ってきたことをしっかりと持ち続け、また次のトライをしていただけたらと思います。ありがとうございました。



司会/二宮雄岳さん  
釜石リージョナルコーディネーターとして釜石市で活動。「まちづくりの調整役」として、様々な人や組織をつなぎ復興まちづくりを推進している。



※学校名・学年等は、平成29年9月現在のものです。

# 感謝の気持ち

「いわての学び希望基金」の支援を受けた子どもたちが、感謝の気持ちを込め、皆様への御礼とともに、自分の「今」を伝えます。



田野畑村役場 農業委員会  
ほんなみ ゆうき  
本波 侑樹さん



震災から7年、今年の4月から私も社会人となり、地元田野畑村の役場に勤めています。先輩方からご指導いただきながら、一日でも早く一人前になれるよう努力しています。

私は中学1年の時に被災し、父を失いました。震災直後は将来のことについてとても不安な気持ちになりましたが、地元の方々、そして全国からの温かいご支援のおかげで、何不自由なく生活することができました。短大まで進学し、充実した学生生活を送ることができたことについても、本当に感謝しています。

地元田野畑村の方々に大変な時期に助けていただいた分、私も地元のために働きたいと思い、現在の職場に就職しました。これからも感謝の気持ちを忘れず一日一日を大切に生き、生まれ育った地域の未来を担う人間になりたいと思っています。ご支援くださった方々の期待に応えられるよう、力を尽くしていきます。本当にありがとうございました。

東北大学大学院 1年  
むらかみ けい  
村上 圭さん



私は現在、東北大学大学院で物理学を専攻し、修士の学生として、ソフトマターの研究を進めています。大学院の生活は、授業よりも研究に重きが置かれるようになります。研究とは、それまでの与えられた課題をこなしてそれに応じて評価されるものではなく、自ら積極的に専攻する分野について調べ、実験や解析をする自主性が求められるように感じます。それは、非常に大変ですが、同時にやりがいを感じております。こうした経験ができるのも「いわての学び希望基金」のご支援のおかげと考えております。支援者の皆様には本当に感謝しております。

現在、私は大学院生の立場ですが、来年には就職活動が始まり、社会人となります。今の自分は、支援者の皆様から受け取ってばかりの身ですが、社会人となったときには少しでもお返しできるようになりたいと考えております。具体的には、被災地のインフラに関わる仕事に就き、被災地の復興に携わりたいと考えております。

支援者の皆様、本当にありがとうございました。

立命館大学 2年  
むらかみ しいな  
村上 椎菜さん



私は今、京都にある立命館大学に通っています。私の学部は興味に沿った様々なことを学ぶことができ、今まで知らなかった多くのことに触れながら充実した学生生活を送っています。そのため将来の夢はそのときどきで変わってしまっていますが、それこそが大学という大きなコミュニティの中で学べている故だと感じています。自分の道を広げるため、これからも学業に励んでいきたいと思っています。

小学6年生のときに東日本大震災で被災してから、本当に様々なことを経験してきました。きっと、私たち被災者は同年代の方々よりもつらい思いをしてきたと思います。しかし、その分たくさんの方々のご支援という温かさに触れてきたのも事実です。そのおかげで、こうして今も元気に学ぶことができています。私たちは全国から力を借りて成長してきたのだと改めて実感します。

私はまだ人として未熟で、ほとんどが誰かの助けに支えられている状態ですが、将来はご支援くださった方々のような誰かを助けられる人になりたいと思います。いつも本当に、ご支援ありがとうございます。

岩手県立宮古高等学校 3年  
ささき にちと  
佐々木 二千斗さん



私は、高校生活で多くのことを学び、多くの人と出会い、非常に充実した日々を過ごしています。その中でも、私の大きな経験だったのは「部活動」と「委員会活動」です。

私は放送部に所属していました。放送部はアナウンスや朗読、テレビドラマなどの番組制作を活動とする部活動です。この3年間で二度全国大会へ出場し、高校3年の全国大会では、テレビドラマ部門において総出品数425作品の中から、4~5位に相当する優良賞をいただくことができました。

また、委員会活動では生徒会執行部と応援団に所属しました。執行部では生徒会長を務めました。責任の重さに辛い時もありましたが、仲間の支えもあり、最後までやり遂げることができました。これらの活動を通して、さまざまな力を培うことができたと感じますし、自校の人とはもちろん、他校や他県の多くの人とも交友を深めることができました。この経験や出会いは、私のかけがえない財産となっています。私がこのように充実した日々を送ることができているのも、「いわての学び希望基金」のご支援をはじめ、たくさんの方々の支えがあったからこそだと思います。

大学受験を控えた今、その方々への感謝の気持ちを胸に勉強に励んでいきたいと思っています。大学進学という進路目標達成のため頑張ります。本当にありがとうございました。

ほかにもたくさんのメッセージが県に寄せられています。  
岩手県公式ホームページ上でご覧ください。

いわての学び希望基金で支援を受けた子どもたちからのメッセージ  
<http://www.pref.iwate.jp/kyouiku/ippan/koho/31859/031839.html>

岩手県立高田高等学校 3年  
みしま はな  
三嶋 花さん



私は、震災で父を亡くしました。それからは、母が一人で家庭を支えてくれています。私には姉と弟がいて、母も合わせると4人家族となります。母一人の支えでは、私たち姉弟が高校生活を送ることや、大学進学を希望することは叶わなかったと思います。しかし、皆様からの温かいご支援のおかげで充実した高校生活を送り、大学進学も希望することができました。

私は大学に進学し、動物応用科学について学びたいと考えています。将来は、動物と人間が共生可能な社会をつくれるような仕事に就きたいです。そして、社会人として働くようになった時は、私たちを支えてくれた母に親孝行をして精一杯恩返しをしたいです。

これまで、私の高校生活をご支援してくださり、本当にありがとうございました。

最後に、私の生活はたくさんの方々を支えられて成り立っているものです。その方々への感謝の気持ちを忘れずに生活していきます。

岩手県立釜石高等学校 2年  
うえた ゆい  
植田 由依さん



私は現在、自分の目標を実現するために、日々努力しています。現在の私の目標は、海外でボランティア活動を行うことです。小学校3年生の時に大震災が起きて、状況がよく呑み込めないまま、避難所で不安な日々を過ごしました。そんな中で、私に活力を与えてくれたのが、ボランティアの方々でした。その中には支援のために外国から来てくださった方もいて、明るく笑顔に私はとても勇気づけられました。このことがきっかけで、私はボランティアに興味を持つようになりました。ご支援をしてくださった方々のように、私も世界中の子どもたちを笑顔にできる活動がしたいです。

今、私は勉強や部活動に励み、充実した毎日を送っています。そして、自分がやってみたくて思ったことには意欲的に挑戦しています。オーストラリアへの短期留学や生徒会執行部の活動、ボランティアへの参加など、挑戦したことはどれも楽しいものでした。様々な価値観や職業の人と交流を持つことで、新しいものの見方、考え方を発見することができました。これからも高校生活をより充実したものにするために、多くのことにチャレンジしていきたいです。

こうして私が充実した日々を送れているのは、支援金を寄附してくださる皆様のおかげです。これからも日々向上心を持って生活し、目標を達成するための努力をしていきたいです。ご支援していただき本当に感謝しています。

※学校名・学年等は、平成30年10月現在のものです。

# エール

子どもたちの支えとなる、  
皆様からの善意の心。  
ご支援いただいている方々の  
岩手の子どもたちへの想いをご紹介します。

## 被災地の子どもたちへ

桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金  
実行委員長 安藤 忠雄

みんな元気で頑張っていますか？

日本の未来は、子どもたちの元気と創造力にかかっています。苦しみや悲しみを乗り越えた子どもたちが、再び笑顔を取り戻し、そして学びを得て自立して成人すれば、きっと日本を引っ張る、強い大きな力となります。

多くの犠牲者を出したあの東日本大震災から、早くも8年の月日が流れようとしています。当時小学校低学年だった皆さんは卒業して中学生になり、高校生だった皆さんの中には、既に社会で活躍しているひとたちもいます。どんな言葉をかけても、慰めにはならないほどの大きな悲しみを、皆さんは心の中にもっていることでしょう。でも、耐え難い辛苦を乗り越え、耐え抜いた君たちは、他の人々の苦しみを受け止め理解できる優しい心の持ち主になったと信じます。将来、どんな苦労にも勇気を持って向かっていける強い心も持っています。皆さん一人一人が、復興への道を一步一步と進み続ける被災地と一緒に成長を続けてきたのだと思うと、非常に感慨深いものがあります。

桃・柿育英会は、「桃、栗3年、柿8年…」と、果樹の実が育つのを数えるように、震災で保護者を

失った子どもたちの成長を、少なくとも10年は見守りたいという願いから、有志の方々とともに立ち上げたものです。発足以降、予想をはるかに上回る反響を呼び、たくさんの方々からご支援を頂きました。どれだけ多くの人々が、被災地の子どもたちを支えたいと考えているかがよく解り、力強く感じました。こうした一人一人の思いをうまく紡いでいくことが出来れば、復興に向けての大きな力となる——そう実感したのです。

人々からの温かい支援を、少しでも早く、確実に被災地の子どもたちに届けられるようにと、いわての学び希望基金に協力させて頂きました。

皆さんには、大きな自然の驚異と向き合わざるを得なかった過酷な体験を糧にして、創造力と自立心をもって、命あるものに対する深い愛情のある人間になって欲しいと思います。そして、ぜひ自分たちの力で、この先の希望を見出して下さい。私たちは、皆さんが力強く生きていくためにも、引き続きそのサポートが出来ればと考えています。



photo by 関野欣次

## 私たちに出来ること

りんご畑deコンサート実行委員会 実行委員長 松島 亮

りんご畑deコンサートは2年に1度、盛岡市黒川にある松本りんご園を会場にりんごの花が咲く季節に行っているチャリティコンサートです。

1999年に第1回目のコンサートを開催し、2012年の第6回目以降お客様からお預かりした募金の一部を、いわての学び希望基金へ寄附しています。

コンサートは2018年で9回を数え、開催の度に同じ思いを持っているたくさんの方々がいることを実感します。実行委員会のメンバー自身が震災当時抱いた「沿岸の方々のために、同じ故郷に住む私たちに何が出来るだろう」という気持ちをこの先も持ち続けるとともに、賛同される方々の気持ちも合わせて今後も寄附を続けていきたいと考えています。



えています。

未来ある皆さんが夢を持って前に進めるように、私たちの活動がその一助になることを願っています。そして、いつかコンサートを観に来られることがあれば、それほどうれしいことはありません。その時は是非、お声をかけて下さいね。

## ともに

盛岡スコール高等学校 スコール祭実行委員会一同

盛岡スコール高等学校では、毎年スコール祭 [文化祭] のバザーで、生徒の家庭から無償で提供していただいた文具・日用品・本・雑貨などを販売しています。事前の準備は生徒が行い、当日はバザー系のメンバーと保護者会の方々のお手伝いをいただきながら販売し、おかげさまで毎年大盛況です。その収益は、経済的に大変な方々の支援になればと考え、毎年さまざまなお送りしてきました。東日本大震災以降は、家族を亡くした沿岸部出身の仲間がいたこともあり、長い目で支援をしたいと考え、「いわての学び希望基金」にお送りしております。

津波被害こそなかった内陸部にいる私たちですが、あの激震と長く続いた余震、国内外の方々からのさまざまなご支援があったことは、いまだに心に留めて生活をしていま



す。今も続いている復興・再生 [新生] への道程で、大きな被害に遭われた方々が希望を失うことなく学ぶことができ、将来社会でお互いを支え合いながら生活できるよう、共に励んでいきたいと思っています。

多発している大災害に、何よりも自分で自分の命を守ることを大切さを理解し、側にいる人に少しでも手を差し伸べられる自分たちでありたいと思っています。

## 全国から寄せられたメッセージ

「いわての学び希望基金」へのご支援の際、多く励ましの言葉や子どもたちへのメッセージを頂いています。

- 「震災を忘れない」「風化させない」と思いながら、微力ではありますがこれからも支援を続けて参りたいと思っております。
- 遠く離れていても、ふるさと岩手のために少しでもお役に立ちたいと思っています。
- 未来の大事な宝である子どもたちが、大きく、大きく羽ばたくために少しでも役に立てるように。
- 被災地の皆さんのことを忘れることなく、思いを同じにして応援している者たちが大勢いることを信じていただきたいと思います。
- 被害にあわれた方々を忘れないで「愛」と「勇気」を届けられたらと思っています。
- 東北の明日を担っていく子どもたちが頼もしく育っていきますように！
- 「がんばろう岩手」の誓いを胸に、被災されました方々に希望を見出していだきたく切に願います。
- 子どもたちが今後、力強く人生を歩んで行けるように、そして子どもたちに創造する喜びが続いていくことを願っています。
- 子どもたちが、震災前に抱いていた夢をあきらめることなく進路選択を実現できるように。
- 未曾有の震災から7年が過ぎましたが、被災された方々の一日も早い復興を心から願い、少しでもできることを続けてまいりたいと思っております。
- 7年目になりました。当時、産まれた子たちは小学生になりますね。また今年も、応援しています。
- 東北復興は終わっていません。まだまだ応援したい！これからもずっと。

# 「いわての学び希望基金」活用状況

皆様から寄せられたご支援は、子どもたちの「暮らし」と「学び」に役立てられています。



岩手県立高田高等学校 女子バレー部の皆さん

## ■ 寄附金の受付状況 [平成30年9月30日現在]

件数 **22,192件**  
 総額 **約95億5,212万円**

日本、アイルランド、アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、カナダ、スイス、スペイン、セネガル、ドイツ、フランスなど世界各国からご支援を頂いています。

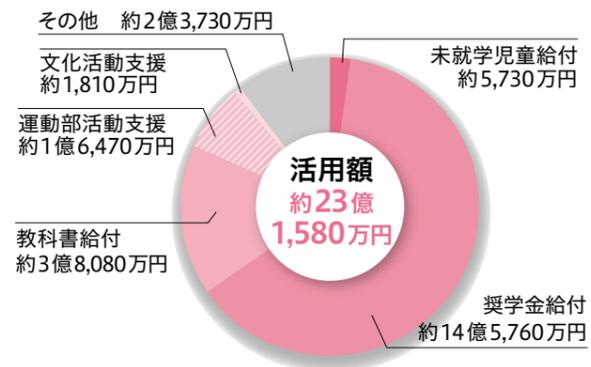
## ■ 本県の津波震災孤児・遺児の状況 (発災当時18歳未満の方)

孤児(両親を失った子ども) **94人**

遺児(父または母を失った子ども) **489人**

孤児・遺児を対象とした奨学金について、平成30年4月からは、月額給付額を増額するほか、大学院生を対象を拡大して給付しています。

## ■ 平成29年度までの基金活用実績



### 【奨学金等給付対象と給付金額】

給付対象	給付金額
未就学児童	(H29年度で終了)
小学生	月額 3万円
中学生	月額 4万円
高校生	月額 5万円
大学生等(自宅)	月額 6万円
大学生等(自宅外)	月額 10万円
大学院生等(自宅)	月額 6万円
大学院生等(自宅外)	月額 10万円
一時金	
小学校入学時	6万円
小学校卒業時	15万円
中学校卒業時	25万円
高等学校卒業時(自宅)	30万円
高等学校卒業時(自宅外)	60万円

[平成30年4月現在]

## ■ 社会に巣立つまでの学費等の支援

東日本大震災津波により被災し、親を失った児童・生徒等に対し、奨学金等を給付し、「暮らし」と「学び」の支援を行っています。

### 【平成29年度までの奨学金等支給人数】

(単位:延べ人)

	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学生・専門学校生等	合計
平成23年度	85	190	137	149	66	627
平成24年度	73	172	130	150	75	600
平成25年度	59	152	117	149	101	578
平成26年度	44	129	107	140	121	541
平成27年度	29	114	102	130	133	508
平成28年度	19	91	102	115	123	450
平成29年度	5	86	84	104	134	413
合計	314	934	779	937	753	3,717

## ■ 被災児童・生徒の支援

被災地では、インフラ整備や住宅再建など、復興に向けた歩みが着実に進展している一方で、未だに仮設住宅での生活を余儀なくされていたり、校庭が十分に使えないなど、様々な困難や制約を受けながら、精一杯、学業や部活動に励んでいる子どもたちがいます。

いわての学び希望基金は、こうした子どもたちの健やかな成長が図られるよう、環境の変化や被災地のニーズに対応し、平成30年4月からは、基金を活用する新たな事業を実施するなど、被災児童生徒への支援を拡充しています。

### ■ 教科書購入費等給付事業

東日本大震災津波で被災した高校生に対し、入学一時金、教科用図書、制服代、修学旅行費を支援します。

### ■ 被災地生徒運動部活動支援事業

運動部活動において、東日本大震災津波で被災した中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会に参加するために必要な交通費等を支援します。

### ■ 被災地児童生徒文化活動支援事業

文化活動において、東日本大震災津波で被災した小・中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会やセミナーに参加するために必要な交通費等を支援します。

### ■ 大学等進学支援一時金給付事業【新規】

東日本大震災津波で被災した孤児・遺児以外の高校生等に対して一時金を給付し、進学等に伴う準備費用を支援します。

### ■ 被災地通学支援事業費補助【新規】

東日本大震災津波で被災した生徒等の通学を支援するため、通学定期券の購入を助成します。

### ■ 修学資金貸付等(看護師・医師・保育士)【新規】

東日本大震災津波で被災した学生等が、看護師、医師及び保育士になろうとする場合に、修学資金を貸付し、修学を支援します。

### ■ 防災教育・復興教育推進事業

沿岸地域の小中学校及び高校の一部を「いわての復興教育スクール」実践校に指定し、復興教育・防災教育の充実を図るほか、「復興教育副読本」を活用した教育活動を県内全ての小中学校で実施することにより、地域の復興・発展、地域防災を担う人材を育成します。



「防災アドバイザー」を招いての授業

### ■ 被災地域県立学校産業教育設備等整備費

被災地域の高等学校の実習用設備及び部活動設備を整備します。

# ご寄附の ご案内

# いわての学び希望基金への ご協力をお願いします。

## 個人の方

### ■ご寄附の方法

寄附申込書に必要事項をご記入のうえ、下記の問い合わせ先にFAX、電子メール又は郵送での送付をお願いします。

併せて、金融機関において、下記の口座への寄附金の振込をお願いします。

口座振込以外にも、県の納付書、現金書留、クレジットカード、県税窓口でのご寄附も可能です。

(ふるさと納税制度をご利用いただきます。)

### ■お問い合わせ先

岩手県総務部税務課

〒020-8570 盛岡市内丸10-1

TEL.019-629-5144 FAX.019-629-5149

E-mail AH0004@pref.iwate.jp

## 法人(団体)の方

### ■ご寄附の方法

寄附申込書に必要事項をご記入のうえ、下記の問い合わせ先にFAX、電子メール又は郵送での送付をお願いします。

併せて、金融機関において、下記の口座への寄附金の振込をお願いします。

法人や団体の方は、銀行口座への振込みのみとなります。

### ■お問い合わせ先

岩手県復興局復興推進課

〒020-8570 盛岡市内丸10-1

TEL019-629-6922 FAX019-629-6944

E-mail AJ0001@pref.iwate.jp

○寄附申込書はコチラからダウンロードできます

<http://www.pref.iwate.jp/shien/link/14902/003243.html>

## 寄附金の振込先について

振込先銀行名	支店名	預金種目	口座番号	受取人口座名義
岩手銀行 (コード0123)	県庁支店 (コード009)	普通預金	2017186	津波・震災孤児等支援寄附 (ツナミ、シンサイコジウシエンキフ)

※岩手銀行各店の窓口での振込については、手数料が免除されます。その他の金融機関及びATMでの振込については、金融機関により取扱いが異なりますので、お手数でも各金融機関にご確認のうえ手続きをお願いします。

## いわての学び希望基金 Q&A

### Q.寄附金はいくらでもいいの？

Aいくらでも構いません。個人で、クレジットカード収納を利用される場合は5,000円以上からの受付となります。

### Q.長期支援を行いたいのですか？

A県から毎年、寄附申込書を郵送いたしますのでご連絡をお願いします。

### Q.現金での納付、クレジット納付は可能？

A個人の場合、可能です。(法人は、県所定の銀行口座への振込のみとなります。)詳しくは岩手県公式ホームページをご覧ください。

### Q.税制上の優遇措置は？

A個人の場合、ふるさと納税制度の対象となり、住民税と所得税の控除対象です。法人の場合、県に対する寄附金は、全額損金算入が可能です。

### Q.ふるさと納税との関係は？

A個人の方からの寄附金は、ふるさと納税制度により受け付けています。

### Q.入金の手数料の負担は？

A所定口座への岩手銀行各店の窓口での振込については、手数料無料となります。個人でクレジットカード収納を利用される方や、納付書を使って郵便局で寄附される方の手数料についても、無料となります。それ以外は、現金書留の郵送料も含め、寄附いただく方の負担となります。

### Q.海外からの入金も可能？

A県所定の口座への銀行振込により可能です。(振込手数料は、寄附いただく方の負担となります。)

### Q.寄附した事実を公表したいが？

A寄附いただいた個人・企業等の皆様のご判断で、公開下さって結構です。

### Q.寄附金の管理方法は？

Aいわての学び希望基金条例に基づき、確実な方法により運用しています。

詳しくは岩手県庁のホームページ

岩手県 学び希望基金

検索

で検索！

<http://www.pref.iwate.jp/shien/link/14902>

